

# 勤労者等による座談会

## 「考えよう！女性のワーク・ライフ・バランス」 ～家事も育児も仕事も 輝いた人生を送るために～

開催日：平成23年3月5日（土）

場 所：宇都宮市男女共同参画推進センター プレイルーム

### 《コーディネーター》

宇都宮市ワーク・ライフ・バランス推進のための意見交換会委員

株式会社フジスタッフ 執行役員 堤 ゆう子氏

（現 株式会社モンドコンシャス 代表取締役）

### 《参加者プロフィール》

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん
年 代	30代	30代	30代	30代	30代	70代
家 族 構 成	夫と子2人 の4人家族	父母と 3人家族	夫と子1人 の3人家族	父母と子1人 の4人家族	夫と子1人 の3人家族	夫と 2人家族
仕 事	学習塾 (パート)	住宅メーカー (常勤)	新聞社 (パート)	エステサロン経営 (自営業)	食品製造 (常勤)	なし

### 《座談会録》

**コーディネーター**：本日は「考えよう！女性のワーク・ライフ・バランス」をテーマに、市内に住む6名の女性の皆さんにお集まりいただきました。コーディネーターの堤と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

まずは、ワーク・ライフ・バランスの共通認識について、確認したいと思いますが、みなさんは、ワーク・ライフ・バランスという言葉については、既にご存知ですね。日本語では、「仕事と生活の調和」と訳されていますが、本質的な意味としては、ワークは仕事で、働き方を見直していただいて、ライフは、決して休むだけではなくて、生活、つまり家庭生活や子育て、趣味、ボランティアなど自分のやりたいことに取り組む時間のことを総称してライフであると思うんですね。

ワーク・ライフ・バランスと言うと、子育てと仕事の両立ということで女性だけのものと思われがちですが、男性にも、独身の方にも、年配の方にもすべての人にワーク・ライフ・バランスを意識してもらいたいという主旨があります。国がワーク・ライフ・バランスを推進している理由のひとつに少子化問題があ

ります。仕事が忙しくてなかなか結婚できない。また、結婚はするけど晩婚である、年齢が高くなってしまふ。それと、結婚して、女性も子どもを生むと、子育てと仕事の両立に自信がない。どうしても出産をためらって先へ先へと延ばしてしまう方がたくさんいます。子どもは欲しいけど仕事も続けたいし、どうしようかなと考えている方が多いのです。仕事と出産を両天秤にかけなければいけないような状況があります。

みなさん出生率って聞いたことありますか。出生率は現在、1.27まで落ち込んでいますね。今の人口を維持するには2人のカップルが2人の子どもを産んで1じゃないですか。今の人口を維持するには2.07とか、2人ちょっと産まないとだめですね。でも、実際には、2.07という子どもの数字はないわけですから、本当は、2人のカップルが子どもを3人産まないで人口が増えていかないですよ。2人産んでも若干減っていきます。一人だともっと減ります。産まないともっと減る。そういう状況で人口が減ると、年金の話題など耳にしていると思いますけど、非常に社会的にも萎んでいって元気のない社会になってしまうとか、このままでいくと100年後の日本の人口は、今の3分の1になると言われています。

このようなことが、国や自治体がワーク・ライフ・バランスを推奨している大きな理由であると思います。一つは女性が働きやすい環境整備とか育児支援もありますけど、男性の意識も変えていかないといけないと思います。今日は女性のための座談会なので、女性の立場でいろいろ意見を言って貰いたいと思います。

私の自己紹介から始めます。私は、大学生のときに学生結婚をして、子どもを出産しました。就職することなく、専業主婦となり、2人目を生みました。上の子が5歳、下の子が3歳のときに、パートの仕事をはじめました。それから契約社員になりまして、正社員になり転職も経験しました。現在の人材派遣会社に勤めて14年目になります。今の会社に入って、3人目を産みました。実は、私には、もう孫がいます。(笑)このような状況でしたので、働き出した頃からずっと、育児と仕事の両立を実践してきました。子どもがいれば町内会、自治会の中で役員をすることも出てきます。自分自身、何にでも興味があるのでいろいろ積極的に参加したりしてきました。

## ▼自己紹介▼

**コーディネーター** : それでは皆さん自己紹介をお願いします。

**Aさん** : 家族構成は夫, 7歳と5歳の男の子2人の4人家族です。学習塾で採点のアシスタントをしています。子どもが小さいので, 昼間働くにあたり, いろいろ仕事を探したりしますが, 子どもの行事のたびに休んでいることはできないだろうなという思いがありました。そのようなことから, 仕事や生活をテーマとした座談会に参加してみようと思いました。

**Bさん** : 私は, 独身で, 今は両親と同居しております。現在, 住宅メーカーに勤めておりまして, 広報関係の仕事をしています。住宅メーカーとして, 家や家族のあり方を大切にする住まいづくりを考えているので, 私自身も子育てや女性の視点での生活のあり方を考えることはとても大切だと思っておりますし, 今日は皆さんの貴重な意見を参考にさせていただきたいと思っています。仕事以外では, 趣味としてお琴を習っています。

**Cさん** : 私は, 夫と3歳の男の子の3人家族です。仕事は, 新聞社でパートの仕事をしています。よろしくお願いします。

**Dさん** : 私は, 中学校に上がる娘との母子家庭です。現在は両親と4人で暮らしています。仕事は, 自営業でネイルやエステのサロンを運営しています。お客様商売なので, 仕事も時間的に, お客様に合わせることが多いです。このため, 自分で仕事の範囲を決めないと, どこまでも仕事になってしまいます。娘が小さい時は, 遅くまで仕事ができませんでしたし, 土日にはあまり仕事を入れないよう気をつけてきましたが, やっと娘も大きくなり, 仕事に対する理解もできましたので, 今は仕事に力を入れています。それと, 今は仕事と家庭とのバランスを考えています。一緒に住んでいる両親の協力があってこそその仕事であると感じており, 両親に感謝しています。また, 娘に働く姿を見せられるのもいいかなと思いつつやっています。

**Eさん** : 私は, 夫と1歳5ヶ月の女の子の3人家族です。フルタイムで食品関係の会社に勤めています。我が家は私も主人も出身が県外なので, 周りに, 子どもの面倒を見てくれる両親や親戚がおりません。それなので, 家に帰ると戦闘状態のようです。(笑) 正直, 大変なときもありますが, 自分でこうしたいと思って選んできた道なので, 納得してやっています。日ごろ, 仕事と育児や家事で手がいっぱいなので, 今日は, そういったことを改めて考える機会として, 参加したところです。よろしくお願いします。

**Fさん** : 私は, 夫との2人暮らしです。子どもは2人おります。長男と長女は結婚し独

立しております。子どもには、それぞれ2人の子どもがおります。私の世代では、結婚すると、女性は、専業主婦となるのが常の時代でした。私も、子育てはやり直しができない大事なことであると考え、しっかりと取り組みたいとの思いから専業主婦の道を選びました。

長男は体が弱く、将来大学にはいった時にアルバイトをするのは難しいのではないかと思ひまして、そのかわりに私が働こうと決心しました。下の子が小学5年生、上の子が中学生の時、正社員として働き始め、約20年勤めました。その間、子ども達は結婚して、仕事と子育ての両立に直面しました。その生活の中で、特に子育てに関して、私を必要とする事が多くなりました。そこで、私は、定年まで5年を残し、この時期は、おばあちゃん業に専念しようと会社を辞めて子ども達に協力してきました。

その生活が一段落した後、市の女性海外セミナーに参加し、男女共同参画等について学びました。それを機に個としての自分を尊重し、私自身の世界を見つけないかと思ひ、趣味を含め様々な事に挑戦してきました。現在は、趣味を楽しみながら、今まで学んだことを社会に還元したいとの思いから、国際交流や地域での活動、そして地域包括支援センターの支援などを行っています。

**コーディネーター** : 皆さんからの、自己紹介が終わりましたので、早速テーマに移りたいと思います。

### ▼あなたの仕事と生活のバランスは？▼

**コーディネーター** : 皆さん、仕事と生活のバランスの状況はどうでしょうか。共働きのEさんはどうでしょうか？

**Eさん** : 仕事と生活のバランスをとるのが難しいのは、自分でもある程度予測していた状況ではあります。頼れる親戚がないこともあるので、正直、結婚よりも出産の方がためらいました。出産したのは結婚して5年後でした。自分なりに納得できる仕事をするということと、休んで復職してからも受け入れられるぐらいのポジションを確保しておかないと現実的に、仕事を続けるのは難しいのではないかと思ひ、結婚して5年間は、ワークの部分に重点を置いて、仕事をがんばり、高いポジションを確保しておきました。今はワークとライフのバランスを自分なりに計算して、家庭生活を送っています。

**コーディネーター** : そういったことが可能な職場なのですね。

**Eさん** : 私の職場は、残業の多い職場です。そのため、結婚した後、出産して復職したとしても、なかなか周りの理解は得られにくいだろうなと思いました。このため、残業しなくても職場に残れるよう専門的なスキルをみがき、休みを取っても復帰できるような準備をしました。職場には、理解してくれる方もいれば、そうでない方もいるのが現実です。

**コーディネーター** : 出産して復職すると集中力が上がり、仕事の密度・生産性が上がるということも聞きますが、どうですか。

**Eさん** : 集中力は以前よりは上がったと思います。独身のころは忙しいと思いつつ、今考えるとゆとりがあったと思います。

**コーディネーター** : 日本と欧米の残業のイメージにはかなり認識の違いがありますね。日本人の残業へのイメージは、「仕事熱心・まじめ・会社に貢献している・家族のために一生懸命仕事をしている父親（女性）」ですが、欧米での残業へのイメージは、「要領が悪い・残業代（経費）の無駄遣い・仕事ばかりしている」というようにギャップがあります。

日本は世界的でも、ホワイトカラーの生産性が先進7カ国の中でも最も低い。ワーク・ライフ・バランスを広めることで、国も意識を変えていきたいという趣旨があります。

**コーディネーター** : 残業について、Bさん、独身の方の立場ではどうですか。

**Bさん** : 自分のペースで、時間を割り振ってメリハリをつけて仕事はしていますが、残業はそれなりにしてしまいますね。

**コーディネーター** : 2人のお子さんをお持ちのAさんは、仕事と家庭のバランスはどうでしょうか。

**Aさん** : 私の実家は県外であり、核家族なので、家族で協力して乗り切るしかないと思ってやってきました。今は、子ども中心に考えて働いています。市のファミリーサポートセンターを利用していますが、とても助かっています。今度は、自分がサポートする側にまわり、働くお母さんたちを助けていきたいと思います。今後、子どもの成長に合わせて働いていきたいと思っています。

**コーディネーター** : 先ほど、Fさんの話で感動したのは、正社員で働けたということですが。

**Fさん** : 当時、働くのならば正社員として働きたいという気持ちがありました。勤務先は、自宅の近くであることを重視しました。たまたま、自宅近くに、ある会社の出張所ができて、運よくそこに就職が決まりました。

**コーディネーター** : 時代的に、40代でも正社員を選べる状況だったのですね。私も、人材派遣の会社にて、出産や育児で退職した母親の再就職支援をしていますが、日本は、出産や結婚を機に仕事を辞める女性が7割もいるといわれています。子ども中心という方もいれば、幼稚園もしくは小学校に入るタイミングで働きたいという女性も多いです。両立するために短時間がいいという方も多いですし、いろいろな希望もあり、条件が合うのは難しいです。

例えば、幼稚園や保育園に迎えに行くため、夕方5時までがいいとか、PTAや習い事など学校行事もあり、週2日や3日の勤務を希望する方など。条件が細かくなると、なかなか仕事がないので紹介できない。能力も意欲もあるが、働く場所がないというのが現状です。

Fさんのように子育てが一段落したときに、自分の希望に近い仕事ができる世の中であれば、仕事も育児も安心してできるのですが。

Dさんは、自分で会社を経営していますが、いかがでしょうか？

**Dさん** : 会社を経営する前の話ですが、高校卒業後、6年ほど電子部品メーカーの製造販売会社に勤務していました。雰囲気もよかったし、特に不満も無かったです。新人で雑用から始めて、年数を重ねるうちに仕事楽しくなってきて在庫の管理等、色々と任されるようになりました。そのうち直接、お客さんと会って、外回りの営業をしたいと上司に申し出たのですが、大卒の新卒の女性のほうに、営業の仕事は優先的に行ってしまう、自分ではこれ以上、責任ある仕事は任せてもらえないのだと思い、自分が希望する仕事ができないということで会社を辞めました。

**コーディネーター** : 現在は、お子さんの成長に合わせ、仕事ができているのではないのでしょうか。

**Dさん** : はい。生活するための仕事でもありますが、子どもの成長とともに、私の仕事に理解を示してくれるようになっていきます。

**コーディネーター** : Cさんは、パートで勤められているということですが、いかがですか。

**Cさん** : 私は、結婚するのが決まって就職しました。就労時間は9時30分から16時

30分までで、8年程働いています。産休を取得したときには、子どもと一緒にいることが楽しく、もっと子どもと一緒にいたいと思いました。でも、働くことは、自分らしくいられるという面もあり、それも楽しいと思いました。私の職場は、パートでも産休や育児休業がとれます。私も夫も、両方とも実家が宇都宮市であり、仕事と子育てを両立するには、恵まれた環境だと思います。

**コーディネーター** : やはり、お子さんがいる場合、短時間勤務という働き方を選択する道もありますよね。Bさんが勤める職場は、働きやすい職場づくりで市の表彰を受けている企業ですが、いかがですか。

**Bさん** : はい。私の会社には、子育てをしながら仕事をしている女性は何名かおります。時間帯を選んで働ける制度もあり、また、周りの方のサポートもある職場だと思います。子どもが熱を出して、帰宅しなければならぬようなときも、周りの理解は得やすいと思います。そのような環境だと、安心して勤められるのでありがたいですね。

**コーディネーター** : 保育園は延長保育がありますが、「小1ギャップ」と言って、子どもが小学校1年生になると早く家に帰ってくるようになり、働く親は頭を悩ませるところですよね。Eさんはいかがですか。

**Eさん** : はい。私の職場では、短時間勤務の選択はできましたが、職種的な問題もあり短時間勤務はしない代わりに、残業しないことを希望し、事前に上司と話し合いました。まだ、職場では短時間勤務制度を使っている人はいないのが現状です。でも、ここ10年位、育児休業を取得し、復帰する人は増えました。

**コーディネーター** : 宇都宮市が行った調査によると、宇都宮市民は、女性の理想の働き方として、継続就労するより、出産・子育て期はいったん仕事を辞め、再就職したほうが良いと思う人が多く、全国平均と比較してもその割合が高いというデータがあるそうですが、徐々に継続就労する女性も多くなっていることは事実ですね。Aさんは、結婚を機にお仕事を辞めてしまったということですが。

**Aさん** : 専業主婦になって2年後に出産し、子育てをしてきました。子育てだけをしていると、世界が狭くなったように感じて、かえって苦しいです。外に出て働く自分の時間と、子育てしながらの自分を持つようになり、好循環が生まれたように思いますし、子どもとの距離感も良くなってきたように思い

ます。私は、自分の人生の全てを子どもにかけるのではなく、出産も自分の一部と捉え、育児も仕事も楽しんでやるのが大切ではないかと思えます。

**コーディネーター** : 私も、大学卒業後、専業主婦でしたので、大学の友達が華々しく活躍しているのを見ると、苦しいものがあり、いらいらして子どもにも当たってしまうこともありました。今は、仕事が楽しく、また、家に帰って、子どもをみるとほっとするという気持ちもあります。働いてからのほうが、自分の気持ちの切り替えがうまくできていると思えます。

Fさんは専業主婦ののち、働き始めたわけですが、いかがでしたか。

**Fさん** : 私は、その時期ごとに自分にとって何が大切かを考えながら、自分の進む道を決めてきました。仕事上では、係長という職務もこなしましたが、私の中では、子育てはやり直しのつかない大切なことという思いがありました。

**コーディネーター** : 専業主婦のときに、苦しさは感じませんでしたか。

**Fさん** : 子どもが病気がちでしたので、私が仕事をするのは、夫からも子どもからも反対されました。でも、実際に勤めてみると、家族の協力がないとできません。当時、私は子どもの成績が落ちたとか、家が片付かないなど、家のことが思うようにいかないとき、マイナスの部分は自分のせいだと思い込んでしまいました。家族に何かあると、自分のせいと落ち込んでしまう。

でも、そんなとき夫から「専業主婦でも100パーセント家のことをできるわけではないので、肩の力を抜いてやったらどうか。」といわれ、本当に肩の力が抜けたのを覚えています。

**Aさん** : 意外に男性（夫）は、「無理なものは無理」とはっきり物事を言ってくれるようなところがありますよね。私たち女性も、自分1人で家事も育児もできると意地を張らずに、夫の手を借りながら、協力してやるのが大切なのだと思います。コミュニケーションの中で、相手の好意を喜んで受ける、相手に頼ることも大切なことではないかと思えます。

**Fさん** : お互いに認め合っているからこそ、助け合える言葉をかけてくれるのではないのでしょうか。それを女性も受け止めていけば、もしかすると、男性も家事のことにもっと目を向けてくれることにつながるかも知れません。

**コーディネーター** : 日本の男性は、国際的にみても、家事に従事する時間は少ないわけですが、私

たち女性も、うまく男性に協力してもらえよう促していくことも大切なのかも知れませんね。

**Fさん** : 例えば、夫が洗濯物を干してくれたとき、ありがとう助かったと感謝することが大事ですね。また、こちらも抵抗なく頼めるようにすることも大切です。

**Cさん** : 私は、どうしても自分がやった方が早いので、自分でやってしまう面はありますよね。でも、買い物には行ってくれます。(笑)

**コーディ  
ネーター** : 家事も育児も家族が協力することが大事ですね。でも、日本の社会の働きかたが残業ありきというところがあり、そのような会社に勤めていれば、先ほどの理想と現実の話でもありましたが、妻の仕事や家事を手伝いたいと思ってもできない。男性は、その状況から逃げられない訳なんですね。Dさんは、どう感じますか。

**Dさん** : やはり、家族あつての仕事だと思います。娘が大きくなるにつれ、どうしても仕事にのめり込んでしまう自分があります。同居している実の母親に頼れるという点では良いのですが。

**コーディ  
ネーター** : 仕事も子育ても時間が長ければいいというわけではなく、密度・生産性を高めることが大事ですね。

**Aさん** : 母親が納得して笑顔でいてくれるほうが、子どもは安心なのではないでしょうか。母子がいつも一緒にいて、不平不満でいらいらしているよりも、いられない時間があっても、子どもは幼稚園や保育園に行って、友達や先生に刺激をもらえてプラスがある。子どもは、親がいきいきと輝いて生きているかどうか、みていると思います。

**Cさん** : 子どもが生まれてから、自分が成長した気がします。仕事も定時で帰りたいので、効率的になった気がします。集中力が高まり、時間の使い方がうまくなりました。

**コーディ  
ネーター** : 限られた時間をどうマネジメントしていくかということはとても大切なことだと思います。この点では、もしかすると女性のほうがマルチタスクで、同時に色々なことをこなせるような感じがしますね。

**Bさん** : 感覚的ではありますが、確かに、時間軸で考えると、女性のほうが一度にあれこれやれるような感じはしますね。

### ▼女性が生き生きと活躍できる社会（職場）にするにはどのようなことが必要だと思いか▼

**コーディネーター** : 女性が活躍できる社会を実現するためには、保育所など社会基盤の整備はもちろん大切だと思いますが、柔軟に働ける職場環境の整備が必要ではないでしょうか。女性も働きたい人は多いわけですが、自分が望む条件と合わないことって色々とありますよね。皆さんはどのように考えますか。

**Aさん** : 私が仕事を探し始めたとき、子どもが小さい頃は病気など色々あるので、1人分として要求される仕事は、会社にも迷惑をかけてしまうので無理だと思いあきらめました。例えば、1人分の仕事量を3人で分担するような体制があれば助かりますよね。平日時間が余っているママさんたちはたくさんいるので、そういう働き方ができたらいいと思います。少しずつでも仕事をしたいという女性は多いと思います。

**コーディネーター** : 私は、人材派遣の仕事の中で、短時間の専門職を派遣する仕組みをつくりました。例えば、受付の仕事を3人体制でやるのはどうかということですが、管理する側が面倒になるということで、理想的な仕組みではあるのですが、なかなか広がりませんでした。

やはり雇用側にとって、管理する人数が増えるのは手間になるので、1人の人で、しかも残業できる人に長時間やってもらった方が楽とのことでした。多くの社会が、そういった意識を持っているのではないかと思います。

まずは、雇う側が意識を変え、1人の社員がすべてを抱えるのではなく、チームでやれるような組織になれば、社員が欠勤しても穴を開けなくてすむようになるのだと思います。

Bさんからみてどう思いますか。

**Bさん** : 私は独身で、子どものためにということもないので、朝から晩まで仕事に没頭し、仕事に集中することができます。でも、家庭を持っている同僚からは、「あと30分でいいので自由になる時間がほしい。」という意見は聞きます。やはり、子育てや家庭にかけられる時間が必要だというときに、誰かが変わってやれるような職場であると、長く働き続けられるのだと思います。

また、子どもの数が増えれば、会社の制度がしっかりしていることに加えて、家族の支えがあることが重要だと思います。会社でもワークシェアリングの考え方があれば、なお良いと思います。

**Cさん** : 私もまだ、子どもが 1 人目だからよいのですが、2 人目が生まれたら大変だと思います。子どもに熱が出たときとか。

**Dさん** : 仕事がありますと、本当に大変です。子どもを保育園に預けて働いている友達もいますが、一方で、働きたくても保育園に預けられなくて、困っているという話もよく聞きます。

**コーディネーター** : そうですね。保育園に入れることはできたけれども、自宅から遠いところであったり、あるいは保育時間が自分の就労時間に合わないなど、課題もあります。

**Eさん** : 私の経験上、市のファミリーサポートセンターは助かりました。どうしても用事があるときで、保育園が休みのときなども助かります。ただ、子どもが病気ときは困りますね。市でも病時保育はありますが、時間帯で使いづらいこともあるため、そうした面の改善や病児保育の箇所数をもっと増やしてもらえるといいですね。

また、病気が治りかけている子どもで、まだ保育園には通園できないような状態の子どもも預けられると良いですね。でも、本当は、病時保育に預けるのではなく、社会全体が、子どもが病気ときに休みやすい職場、あと 30 分早く帰れる職場であったら良いなと思います。

**Fさん** : 働きやすい社会基盤は、時代とともに徐々に整備されてきておりますし、それらを活かしていく必要があります。

一方で、活用したくてもなかなか利用できないような社会や職場の雰囲気があります。例えば、男性は、育児休業制度を使うことが難しいと聞いております。そんな時、自分はその制度を使いたいと意思を伝えて、それを利用することが大事だと思います。同時に、社会や職場では、制度を利用し易いような環境を推し進めていくことが必要です。

そのうえで、更なる整備を必要とするならば、政策決定の場に私たちの意思を推進する人を選挙などで選んでいくことも大切なことの一つだと思います。

**コーディネーター** : 育児休業は、まだ、100パーセントの給与は補償されておらず、そういった点からも、男性では取得する人がまだまだ少ない状況にあります。

## ▼座談会のまとめ・感想▼

**コーディネーター** : それでは、時間も終わりに近づいてきましたので、最後に今日の座談会を通じた感想を聞きたいと思います。

**Aさん** : 女性は1人で家事・育児プラス仕事をこなすとても大変だと考えるのではなく、家族の協力を得ながら、色々なことにチャレンジし、前向きに取り組むことで、人生の好循環をつくれるのではないかと思います。  
確かに、大変さはあるかも知れませんが、自分を高めているという意識を持てば、頑張れるのではないのでしょうか。そうすれば、なぜ自分だけが大変な思いをするのかと思わずに、これから先も社会や仕事と前向きに関わっていけるのではないかと思います。

**Bさん** : 今日、子育てされている方の意見や仕事と両立をされている方の意見を聞いて、「子育てをしながらでも、頑張っていけるのだな。」と心強く思い、勇気ももらいました。

**Cさん** : 女性だからこそ、仕事と家庭の両立ができたのかなと思い、とてもためになりました。

**Dさん** : いろいろな年代の方の話が聞けて、とても参考になりました。そして女性同士、横のつながりは大切だと思いました。

**Eさん** : 皆さん、とても生き生きして働いているように感じました。今日は楽しかったです。皆さんとお話できて、肩の荷が下りました。自分でこうしたいと思い、行動すれば前向きに生きていける、道がひらけていけると感じました。

**Fさん** : 皆さん、自分をしっかり持っていらっしゃり、とても安心しました。

**コーディネーター** : 女性の人生は、ライフステージによって本当にドラマティックに変わります。就職、結婚、出産、育児など、自分の人生を自分で決めていく場面に、何度も直面します。だからこそ、女性も自立し、そして、男性も女性も助け合っていく必要があるのだと思います。  
本日お集まりの皆さんには、是非、自分なりのワーク・ライフ・バランスを実現していただきたいと思います。本日はありがとうございました。